「木造平家建住宅」課題ルーブリック評価表

図面名	立面図	出席番号　　氏名		
No.	評価観点	評価尺度		
		評価　A（　　点）	評価　B（　　点）	評価　C（　　点）
1	平面図からの 下書き線	□　平面図を用紙の上部に貼って、通り芯や開口部の位置を下書き線で立面図に引き下ろして整合性を確認しながら作図ができている。	□　平面図を用紙の上部に貼って、通り芯や開口部の位置を下書き線で立面図に引き下ろして作図しているが、整合性が不十分な箇所がある。	□　平面図を用紙の上部に貼らずに、お手本の立面図の寸法を測りながら作図している。
2	通り芯・高さ・勾配などの基準線・基準記号	□　下書き線を極細線で正確に作図した上に、基準記号、基準線(細線の一点鎖線)を正確に作図できている。	□　下書き線が極細線で正確に作図されていなかったり、基準記号、基準線(細線の一点鎖線)が正確さに欠ける箇所がある。	□　下書き線が太く目立っている。基準記号、基準線(細線の一点鎖線)も正確さに欠ける。
3	外形線（屋根・壁）	□　外周の輪郭線を極太線で遠近感を出し、地盤線を超極太線で安定感を出し、正確に作図できている。	□　外周の輪郭線を極太線でなく、地盤線を超極太線でなく、正確さに欠ける箇所がある。	□　外周の輪郭線を極太線ではなく、地盤線も超極太線ではなく、正確さに欠ける。
4	開口部等見えがかり	□　開口部は、極太線と細線を使い分けメリハリがあり、その他の見えがかりも正確に作図できている。	□　開口部は、極太線と細線の使い分けができておらず、その他の見えがかりも正確さに欠ける箇所がある。	□　開口部は、極太線と細線の使い分けができておらず、その他の見えがかりも正確さに欠ける。
5	寸法、文字等	□　寸法等の線は細線で、寸法値、室名等の文字は下描きの字幅線を引いて、くせ字にならず、均一な大きさでわかりやすい記載になっている。	□　寸法等の線は細線で、寸法値、室名等の文字は下描きの字幅線を引かず、くせ字になり、均一な大きさでわかりやすい記載になっていない箇所がある。	□　寸法等の線は細線で、寸法値、室名等の文字は下描きの字幅線を引かず、くせ字になり、均一な大きさでわかりやすい記載になっていない。
6	課題全体の完成度	□　全体のレイアウトが良く、用紙の汚れもなく、紙面全体が美しく仕上げられている。	□　全体のレイアウトが片方に寄っていたり、部分的に汚れており、美しさへの配慮が不足している。	□　全体のレイアウトが悪く、用紙の汚れが目立ち、美しさへの配慮が明らかに欠けている。
小計				

備考		合計